

世界の漁業を豊かに

実験所は、舞鶴湾に面した長浜地区にある。もう一人の常駐教官、助手の益田玲爾さん(36)の専攻は魚類行動学。「例えばハワイ周辺の魚は四百種ですが、若狭湾は緯度は北にありながら対馬暖流の影響も受け、南北両方の二八百種がいる

—研究に

した中舞鶴小の教師、橋田洋子さん(43)は「子供もなま
ちは『自分と』の海は最高や」「『(子)みを何とかせな
かん』と意識が変わった。本だけで知るより、実際に
ふれてみて、学ぶ上では各
かった」と語る。

いの量を放し
きとめたい」
実験所には
ルゼンチン、
や留学生も集
めの研究が世界
っていく。そ
感じる」。田
けした顔がほ

アメリカやア
中国の研究者
う。「舞鶴で
の漁業に役立
のだいこ味を
中さんの日焼
こうんだ。

洋子さん(43)は「(中略)自分たちの『自分ら』の海は最もやや」『(中略)を何とかせなきかん』と意識が変わったのかんだけで知るより、実際に本だけで知るより、実際にふれてみて、学ぶことは多かつた」と話す。

いの量を放したら有効か突きとめた」
実験所にはアメリカやアルゼンチン、中国の研究者や留学生も集う。「舞鶴での研究が世界の漁業に役立っていく。そのだいじ味を感じる」。田中さんの日焼けした顔がほほえんだ。
海を守り、豊かにする研究がある。二十一世紀の海に。（おわり）
(6)のシリーズは道津保、村屋尾志、尾崎晃之が担当しました)

研究に最適 水産実験所

(故人)の収集を土台にした魚類標本約三十万点が並ぶ。国内最大のこのコレクションを地元の小、中、高校生にも公開している。

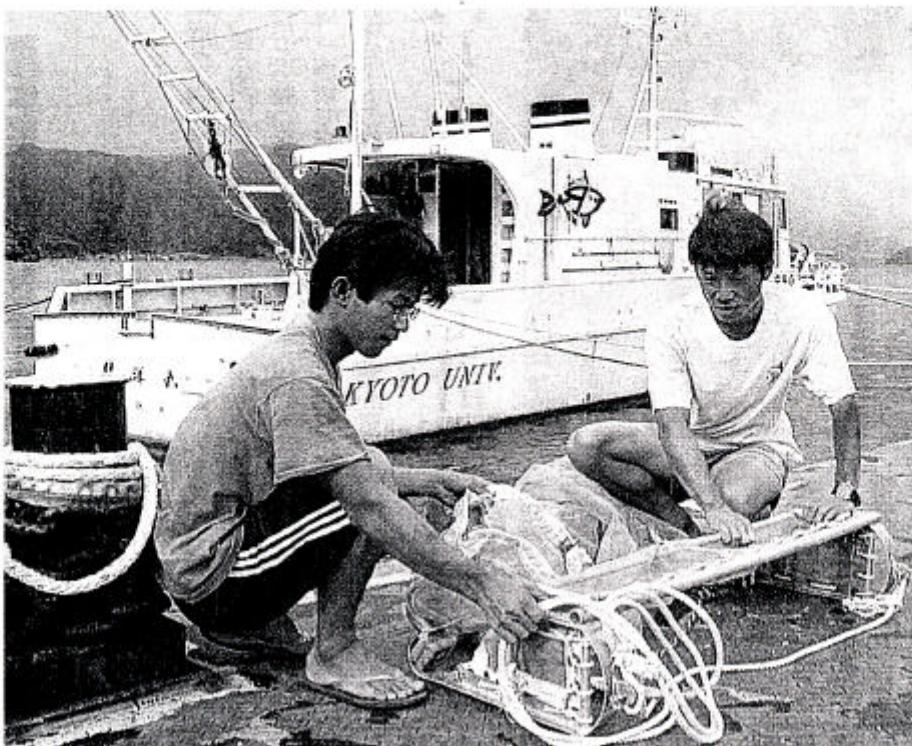
「本を持ち歩いていました」と笑う。
研究はまる五年になり、由良川河口などで稚魚放流を続ける。「由良川河口のえさは豊富なのに稚魚を食べる天敵がいるようです。それぞれの環境でどれくら

えたりいなくなつたり。まるで花が咲くようです」研究とともに、「教育が実験所の大きな柱だ」と三階建ての水産生物学標本館には、水産生物学講座の力の授業、公認認定公

ビラスの栽培漁業を研究するチームの博士課程三年の田中庸介さん(27)は、紀の川に沿う和歌山県打田町の出身。「目に見えない、水の中の生き物が好きで、心地いい」と語る田中さん

といわれる」と、その海の豊かさを教えてくれる。

調べるためにマタイの稚魚に紫外線をあてる実験、ナホトカラ重油流出事故をきっかけにした石油を分解する



ヒラメ稚魚を放流する器具を扱う益田さん（右）と田中さん。海の可能性を探る研究が続く（京都大付属水産実験所で）

21世紀の海

5

午前九時すぎ。威勢のいい競りの声が飛び交う府漁連舞鶴市場。水揚げされたばかりの魚介類を観察するのが、京都大付属水産実験

研究フィールド。はつと取
づく」とがあり、あわての」
とがない」

騒

なつたり。ま
うです。一 ヒラメの栽培漁業を研究
する子ノムの博士課程三年

専門は「マグロ・カジキの分類や進化」。世界共通の魚とあって、一年の半分以上を海外で過ごす。

が実験所の大
二階建ての
館には、水産
加工販賣、公

の川に沿う利根山県を日田水産生物標本の出身。「目に見えない、生物学講座の水の中の生き物が好きで、心ついこまかっ魚の会